

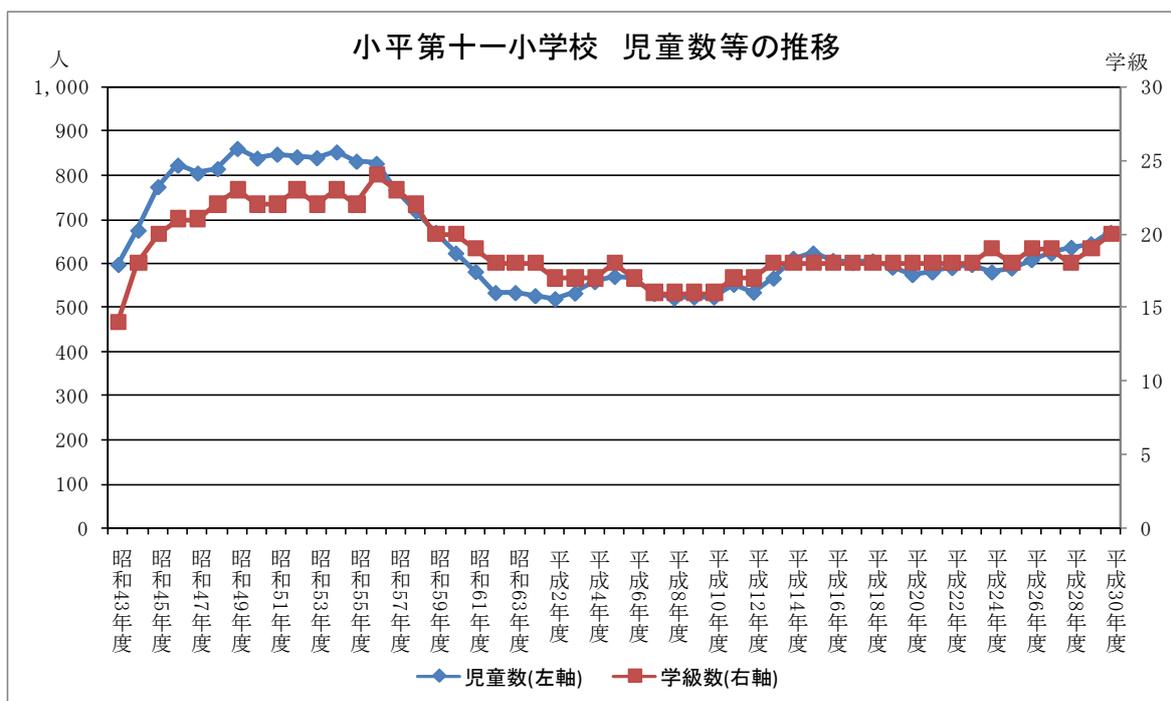
小平第十一小学校及びその周辺の状況について

1 対象施設の概要

所在地	花小金井四丁目16番1号
用途地域(建ぺい率・容積率)	第一種低層住居専用地域(40%・80%)
土地面積	14,514.36㎡
土地の所有形態	市有地
建築年または改築年	校舎1967年(昭和42年)、体育館1974年(昭和49年)
構造	鉄筋コンクリート造(校舎)、一部重量鉄骨造(体育館)
建築面積(建ぺい率)	校舎2,304.38㎡(15.87%)、体育館745.34㎡(5.13%)
延床面積(容積率)	校舎5,361.09㎡(36.93%)、体育館843.13㎡(5.80%)
階層	校舎 地上3階、体育館 地上2階
構成(部屋名)	校舎 普通教室、特別教室、職員室、給食室、プール等 体育館 体育アリーナ、ステージ、放送室等
経過年数、目標耐用年数(到来年)	校舎 51年経過、60年(2026年) 体育館 44年経過、60年(2033年)
現行耐震基準	適合
設置目的	心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す
サービス内容	普通教育
同分類(類似)施設	【施設分類】 学校(学校教育系施設) 【同分類(類似)施設】 小・中学校
近隣施設	消防団第五分団、花小金井北地域センター、花小金井北公民館、中央図書館花小金井北分室、花小金井武道館、大沼グラウンド、花小金井四丁目市民広場、小平第六中学校、花小金井保育園、十一小学童クラブ第一・第二、高齢者館(さわやか館)、高齢者デイサービスセンター

2 児童数の推移

児童数は、開校当時は597人で、昭和40年代から50年代にかけて800人を超えましたが、その後減少し、昭和60年代は530人程度となりました。ここ数年は上昇傾向となり、2018年(平成30年)は670人となっています。



3 これまでの状況

小平第十一小学校は、小平第五小学校の分校として1967年(昭和42年)に開校し、2017年(平成29年)には、創立50周年を迎えています。

校舎は、開校時の1967年(昭和42年)に建設してから、児童の増加に合わせて昭和40年代にはほぼ現在の校舎形状となり、1978年(昭和53年)に現在の状況となりました。体育館は、1974年(昭和49年)に建設しています。2005年(平成17年)に、校舎・体育館ともに耐震補強工事を実施しています。

◆関連建物の状況

2017年(平成29年) 劣化診断実施

2019年(平成31年) 年度末までに、更新等の実施の適否を判断

※劣化診断の状況から1年前倒しを検討

◆コミュニティの状況

十一小地域は、学校支援ボランティア、放課後子ども教室、青少年対策地区委員会など、地域コミュニティの活動が盛んに行われています。学校及び青少年対策地区委員会を中心に、七小、六中との小・小連携、小・中連携の取組も深まっています。

◆周辺施設の状況

施設名	目標耐用年数到来年	地域/広域	床面積	備考
第十一小学校	2026	地	5,369.09	
第十一小学校体育館	2033	地	793.13	
第十一小学校体育館(学童クラブ第二)	2033	地	50.00	
十一小学童クラブ第一	2046	地	143.52	
花小金井北地域センター	2049	地	596.86	
花小金井北公民館	2033	地	417.00	(花小金井北公民館合築)
中央図書館花小金井北分室	2033	地	24.14	(花小金井北公民館合築)
花小金井保育園	2033	地	622.00	(花小金井北公民館合築)
高齢者デイサービスセンター	2061	広	200.00	(都営住宅内)
高齢者館(さわやか館)	2061	広	700.40	(都営住宅内)

◆劣化診断の状況

校舎について、コンクリート圧縮強度は設計基準強度を確保していました。中性化の進行度は、昭和40年代前半に建築された初期の部分については、中性化が鉄筋に達しています。鉄筋に顕著な腐食は見られないため、現状では安全性を脅かすような状態ではありませんが、更新等を考える時期に来ていることが窺われます。目標耐用年数は、80年以上の部分もありますが、多くは50年程度です。

体育館についても、中性化が進行しています。校舎と同様、鉄筋に顕著な腐食は見られないため、現状では安全性を脅かすような状態ではありません。目標耐用年数は45年程度と推定されます。

4 その他

今後の児童数の推計では、数年は微増傾向が続く見込みであり、長期的には平成27年国勢調査による町丁別将来人口では、主な学区域となる花小金井二丁目から五丁目まで及び花小金井八丁目の年少人口は現状とほぼ変わらず、減少する見込みはありません。